

(はじめに)

○山梨経済同友会県都活性化委員会では、平成 16 年度事業において「定住人口の増加」の視点から、県都甲府市の活性化について主として「中心部の小学校跡地の民間活用」に的を絞った提言を行いました。

平成 17 年度は、昨年度のテーマである「定住人口の増加」と共に県都活性化のために最重要な課題である「交流人口の増加」をメインアプローチとして 1 月より委員会を重ね、また、4 月に開催された「経済同友会全国セミナー」への出席も含めてこれまで委員より積極的な意見交換を実施してきました。

本報告書は本年度のこれまでの委員会における意見を集約したもので、いわば今年度の事業のまとめともいうべき内容で「提言」したいと考えております。

県都活性化委員会
委員長 伊良原 龍夫

1. 県都活性化に向けての「交流人口増加」の提案

●山梨県および甲府市の地場産業や観光イベント等をもっとホンモノ志向とする

【理由】

都市間競争が激化している中で県外並びに海外からの集客力を増加するためには、もはやモノマネはあきられ、また敬遠されている。やはり、その地域に有するホンモノのコンテンツ（中身）を求めて人々は移動していくといえる。

【具体的な実施項目】

- ・現在の県地場産業センターを廃止し、甲府市中心部へ先端技術と伝統技術等をシステム化し全国へ県内地場産業を発信するトレードセンターを設置する
- ・現在のイベントを見直し、全国から集客できる参加型イベントを舞鶴城を中心に実施する

●県都甲府市を利用する人々への利便性を増加するようなシステムを早急に整備する

【理由】

山梨県には空港はなく、甲府市へ来る多くのビジターは東京または名古屋方面から電車や高速道路など途中でワンクッション入った形で来ることが多く、直接全国の点と線がつながっていない。このため、移動時間が長いことで特に物理面でのロスが多いというマイナス面が指摘でき、この解決を図っていく必要がある。

【具体的な実施項目】

- ・中央本線の短時間化や主要都市への乗り入れなど東京からのアクセス時間を短縮する
- ・甲府市内及び周辺観光地等を循環させ、かつ環境対策を考えた路面電車（LRT）を設置してビジターおよび地域生活者への利便性を向上させ

●周辺観光地等と連携し、積極的かつ効果的な広告・宣伝活動を県外や海外に向けて発信する

【理由】

全国的あるいは海外から見て山梨県ならびに甲府市の知名度は低い。富士山をはじめ昇仙峡、甲府盆地周辺の山々などの自然景観や、県立美術館、武田信玄ゆかりの諸旧跡をはじめとした数多くの観光資源を有しているにもかかわらず、知名度が低いことの最大の課題点として広告宣伝、PR不足をあげることができる。

【具体的な実施項目】

- ・外部専門業者任せではなく、行政内部、経済界、学界等においてもっと効果的な広告・宣伝・PR等について真剣に調査・研究を行い、対外面で効果の高い内容とする
- ・甲府市、山梨県を本気で“売る”ための人を行政等で採用する

●規制を外し、集客のための特区をつくる

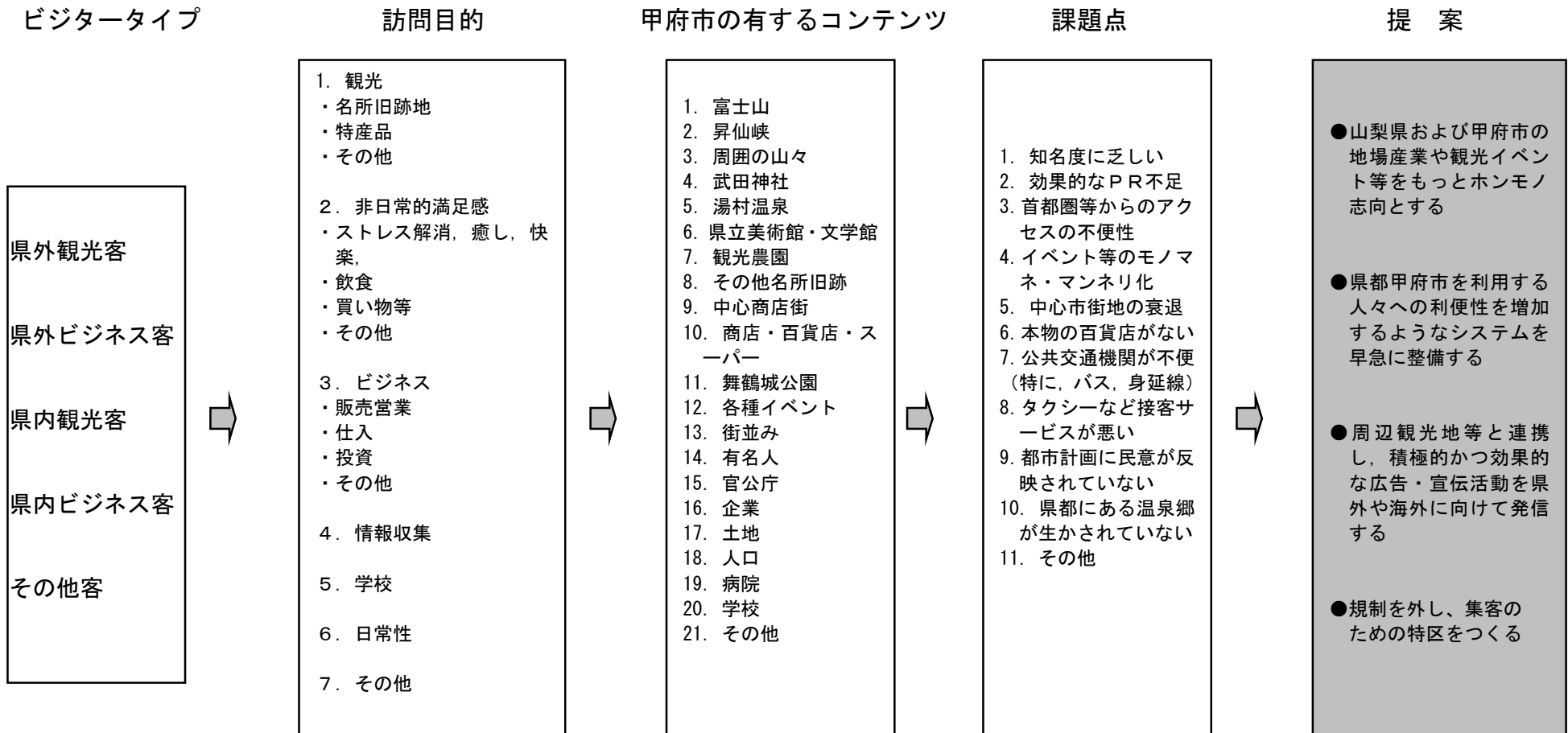
【理由】

地域の特性を有した新たなビジネスモデルを実現するためには、これまでの規制を見直し、民間からの自由な発想を重視する必要がある。現在の甲府市および周辺部を取り巻く規制を緩和あるいは外すことで「交流人口増加」を実現する必要がある。

【具体的な実施項目】

- ・甲府市東部へのドックレース場の設置
- ・甲府市への投資効果を高める民間からのビジネスプラン等を積極的に採用する

山梨経済同友会県都活性化委員会
「交流人口増加」へのフロー図



2. 交流人口に係わる各種資料

1. 甲府市及び周辺部の集客地域・施設

(1) 観光地

武田神社、昇仙峡、湯村温泉郷、石和温泉郷、その他

(2) 文化施設

県立美術館、県立文学館、県立博物館、県立考古博物館、その他

(3) イベント施設

アイメッセ、県民文化ホール、甲府市民会館、その他

(4) 特産品施設

県地場産業センター、県情報プラザ特産品センター、民間ワイナリー

(5) エンターテイメント（娯楽）施設

石和競馬場、その他

2. 甲府市周辺の交流人口の現状

(1) 甲府市周辺観光地と訪問客数

平成 14 年度から 16 年度の甲府市周辺観光地への客数は下表のとおりで、15 年度は前年比 95.1%でしたが、16 年度は武田神社、湯村温泉郷などへの客数の増加から合計でも若干ながら増加となりました。

単位：人・%

観光地別	平成 14 年度	平成 15 年度	前年比	平成 16 年度	前年比
昇仙峡	4,465,000	4,153,000	93.0	4,207,000	101.3
武田神社	2,685,000	2,518,000	93.8	2,770,000	110.0
美術館周辺	438,124	288,168	66.5	270,447	93.9
湯村温泉郷	1,178,000	1,142,000	96.9	1,166,000	102.1
観光ぶどう園(7店)	200,000	154,000	77.0	131,880	85.6
地場産業センター	312,522	293,834	94.0	266,649	90.7
その他	424,200	675,000	159.1	496,100	73.5
合計	9,702,846	9,224,002	95.1	9,308,076	100.9

資料：甲府市観光課

(2) ビジネス関連客の動向

ビジネス関連客の甲府市への来街者数は公表データがありませんが、JR 及び高速道路の利用状況は以下のとおり若干の減少傾向にあります。

なお、このほかビジネスホテルなどの利用者数等も参考値となり、近年、甲府市内においては全国チェーンのビジネスホテルの客室数の増加傾向は見られますが、反対に県内の零細ビジネスホテルなどは閉店しているところもあり総数としては横ばいからやはり若干の減少状況と推測されます。

単位：人・%

利用状況別	平成 14 年度	平成 15 年度	前年比	平成 16 年度	前年比
J R 甲府駅年間乗降客数	11,169,000	10,877,000	97.4	10,731,000	98.7
J H 甲府昭和インター入口数	2,418,896	2,382,538	98.5	2,367,012	99.3
J H 甲府昭和インター出口数	2,627,475	2,599,266	98.9	2,585,013	99.5
J H 甲府南インター入口数	1,409,189	1,404,385	99.7	1,384,594	98.6
J H 甲府南インター出口数	1,488,259	1,479,223	99.4	1,456,902	98.5

資料 1：J R 甲府駅の乗降客数は J R で公表した 1 日当り平均乗車客数を年間乗降客数に換算した。

資料 2：J H の出入口数は J H 八王子管理局公表分

(3) 山梨県内観光地への来客数

県内全般の観光客数のここ 3 年間の推移は以下のとおりです。甲府市を中心とした峡中地域は全体の 20% を占めていますが、客数は若干減少傾向にあり、峡北地域が増加傾向にあります。

圏 域	観光客数（延人数）			構成比		
	平成 13 年	14 年	15 年	平成 13 年	14 年	15 年
	(千人)	(千人)	(千人)	(%)	(%)	(%)
全 県	57,499	56,074	56,353	100.0	100.0	100.0
峡中	12,401	12,102	11,527	21.5	21.6	20.5
峡東	10,335	9,190	9,418	18.0	16.4	16.7
峡南	3,679	3,546	4,167	6.4	6.3	7.4
峡北	8,769	8,803	9,291	15.3	15.7	16.5
富士北麓・東部	22,315	22,432	21,950	38.8	40.0	38.9

資料：山梨県統計データバンク

3. 行政における交流人口増加施策について

国においては観光政策として「ビジット・ジャパン・キャンペーン」・「訪日外国人の受入・交流の促進」・「世界の国々との観光交流強化の取り組み」等戦略的な施策がホームページ上で P R しているが、甲府市及び山梨県においてはこのような戦略的施策については少なくともホームページなどには公表されていないのが現状です。

一応、山梨県においては平成 15 年度よりそれまでの商工労働観光部から新たに観光部を独立させて観光客誘致に取り組んでおり、フィルムコミッション (F C) の立ち上げなどを具体化させているが、F C についても長野県上田市など他都道府県及び主要都市等に比べると動きは鈍く、交流人口増加に向けての具体的施策は極めて乏しい内容となっています。

なお、甲府市においても県と同様に積極的な交流人口増加のための施策や具体的動きはほとんど見られない状況にあります。

以上